共同研究テーマ：
平和博物館の社会的機能に関する基礎的研究―「ピースあいち」を実践の場として

研究代表者：平田雅己准教授
研究分担者：阪井芳貴教授、菊地夏野准教授、山本明代准教授、濱本篤史准教授

本研究の目的は、戦後日本社会における平和意識の形成に多大な影響を与えてきた平和博物館の社会的機能や可能性について「研究」と「実践」を組み合わせながら、多角的に考察することにある。

現在、世界には平和博物館が約 120 館ほどあるが、うち半数以上が日本に存在している。特に 1990 年代以降、「15 年戦争」全体を総合的に捉えた本格的な平和博物館が次々と建設されている。大都市圏では愛知のみがこうした動きの中で立ち遅れていたが、大学教員、地域の弁護士、一般市民らによる 15 年余の建設運動の到達点として、2007 年 5 月、名古屋市名東区に民設民営の平和博物館「ピースあいち」が誕生した。

国内外に存在する平和博物館に関する情報収集や分析を通じ、博物館展示や博物館を利用した平和教育のあり方に関する考察を行うことによって、平和創造の主体形成の場として今後「ピースあいち」が発展する可能性を模索するとともに、地域の特色に根ざした新たな平和／歴史教育の理念や方向性を打ち出すことが、本研究に期待されている。

本研究は平成 19 年度及び平成 20 年度特別研究奨励費採択対象の「名古屋市立大学における ESD（持続可能な開発のための教育）推進に向けた基礎的研究」において「平和」班に所属したメンバーを中心に展開されるものである。